

倫理 第14回「儒教の展開／道家の思想」

○今回のポイント

儒家は道德、道家は自然により、人間や社会の在り方を説く。

I. 儒教の展開

1. 性善説

- ・ 孟子の【① 性善説】…人間は本来、善におもむことうする存在であるという考え方。
- ・ 四端説

人間は生まれながらに4つの善良な芽生えを持っており、それを学問によって修養すれば、誰でも四徳を身につけることができる。四徳を身につける中で強い精神力である【② 浩然の気】を身につけることができ、どんな困難でも徳を実践しようとする理想的な人物を【③ 大丈夫】という。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 【④ 惻隠】の心（他人の不幸を見逃せない） → ・ 【⑤ 羞惡】の心（自分や他人の不善を憎む） → ・ 辞讓の心（他人を崇敬する） → ・ 是非の心（善悪を見分ける） → 	学問	<ul style="list-style-type: none"> → 仁 → 義 → 【⑥ 礼】 → 【⑦ 智】
--	----	--

2. 王道政治

- ・ 【⑧ 五倫】の道…人間関係を成り立たせている基本的な秩序。親・義・別・序・信
 → 父子の親(親愛)／君臣の義(礼儀)／夫婦の別(男女の区別)／長幼の序(兄妹の順序)／朋友の信(信義)
 Cf.五倫・五常が儒教の重要な徳目となる
 ・ 五常→四徳 (仁・義・礼・智) + 信 by 董仲舒(漢の武帝に儒学の官学化→五経博士)
- ・ 【⑨ 王道政治】…仁義に基づく理想的な政治。人民のことを第一に考え、徳にもとづいた政治を行う。

武力や謀略により民意に背く暴政(霸道政治)が行われた場合は、易姓革命が行われる。

※【⑩ 易姓革命】…「天が命を革め、王の姓を変える」。民意に従わない君主は天命を失い追放。

3. 性悪説

- ・ 荀子の【⑪ 性悪説】…人間は本来私利をむさぼり、他人を憎む性質を持つ。
 →規範としての礼によってその性質を矯正していく必要がある。
- ・ 荀子から法家へ
 →荀子の弟子の【⑫ 韓非子】らにより法家(法律と刑罰によって社会の安定をめざす)

商鞅	秦の孝公に仕え変法を実施。孝公死後、反対派により自分が制定した車裂きの刑で処刑された。
韓非子	法家思想を大成したが、韓非子を妬んだ李斯により殺害された。
李斯	始皇帝に仕え、法家思想に基づく政策を進言し、統一を完成させた。焚書坑儒。

※荀子と法家の違いって何？

→荀子が古代の聖王の定めた礼儀に従えば、必ず人民は教化されて天下は治まるとした点で、法による秩序を重視した法家の思想とは異なる。

4. 儒学の成立

『論語』、『孟子』、『大学』、『中庸』

『詩経』、『書経』、『易経』、『春秋』、『礼記』

(1) 経典研究

- ・ 儒教の経典 **⑬ 四書** ・ **⑭ 五経** → 漢代以降、五経の経典研究 → 儒学の成立

(2) 朱子学…周敦頤創始 → 朱子大成

- ・ **⑮ 理気二元論** …理（天地万物に内在する宇宙の原理）と気（万物の元素である運動物質）によって世界の構造をとらえる考え方。
- ↓
- ・ **⑯ 性即理** …天から与えられた人間の本質（性）が理であること。
- ↓
- ・ **⑰ 氣質の性** …現実の人間は物理的な気に妨げられた状態（=氣質の性）にあり、善をなせない。ヒトは肉体的欲望である氣質の性がわざわざいして本来の性を発揮できない。
- ↓
- ・ **⑱ 居敬窮理** …つつしみによって人欲を捨て（居敬）、万物による理を窮め（窮理）、宇宙の理と一体化する。
※居敬窮理によって、ヒトが本来の知に至ることを「**⑲ 格物致知**」という。
- ↓
- ・ **⑳ 聖人** …居敬窮理により理と一体化した理想の人格。

(3) 陽明学…陸九淵が創始 → 王陽明が大成

- ・ **㉑ 心即理** …万物の根源の理を人間の心の中に見いだす。生まれながらの心の本体がそのまま天理である。
- ↓
- ・ **㉒ 致良知** …心が善悪是非を判断するはたらき（良知）のままに生きることが人間の道であるという考え方。
※朱子学が居敬窮理により万物の理を窮めんとしていたことと対比せよ
- ↓
- ・ **㉓ 知行合一** …良知は行為によって実現されるので、実践をきわめて重視する考え方。

Ⅱ. 道家の思想

・道家… 道徳や道徳に基づく統治を自然に反する人為的なものと批判 → 自然との一体化が理想

(1)[24. 老子]の思想

- ・大道廢れて仁義あり…道徳は社会の混乱に対し人間が作り出したもので自然に反する。
- ・自然が理想なのは、何で？

・[25. 道] (タオ) …万物の根源。道は無。万物は無から生じて無に帰る。

宇宙は無から有が生じ、有から無に帰る永遠の運動

→ このような宇宙の中では、人間が願い、思うことに絶対的なものは何一つ存在しない。そのため、人為的に働きかけるのをやめる。

→[26. 無為自然] (意識的には何もせず、万物をありのまま生み育てる無限の働き) が良いので、

[27. 柔弱謙下] (自然に身を委ゆだね、他と争わず身を低くする水のような在り方) が人間の理想。

・老子の国家の理想は？→[28. 小国寡民] …人間が自然のままに生活できる村落共同体。

(2) 荘子の思想

・[29. 万物斉同] …万物は本来、平等一体であること。

↓ 人間の知恵や判断の相対化 自己の利害や執着からくる不自由や苦しみ

・[30. 心斉] (知恵や執着を捨てて心を空しくする) と [31. 坐忘] (己を忘れて自然の働きと一体化)

↓

[32. 逍遙遊] (何ものにもとらわれない絶対的自由の境地) に達する。その理想の人間が [33. 真人]。あくせくとした社会や政治から逃れ、名声も飽くもなさず、悠々として天から与えられた寿命を全うする。